

四国の防災十二術・封筒の作成方法

四国の防災十二術

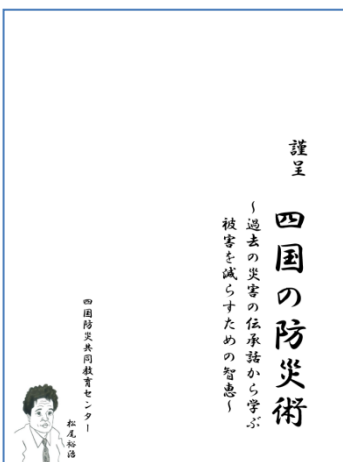
メカニズムの理解

一の術：「地域の災害特性を学ぶ術」とは、歴史に学ぶという「先祖降り」の視点、自分たちが住んでいる土地がもともとどのような土地であったかを知り、地域が歴史的に災害に遭ってきた地域であることを知り、災害により被害に遭った可能性の高い地域であることを知り、災害により被害に遭った可能性の高い地域であることを学ぶ。具体的には、地域にある災害遺産から過去の災害を学ぶ、地名や地形から地域の災害履歴を知ることなど災害メカニズムの理解が求められる。

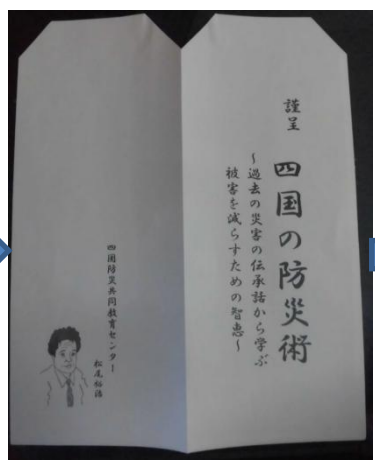
二の術：「災害への備えを忘れぬ術」とは、災害に対して安心する人が増える中にも、人々に準備を考らし、古よりの準備、災害への備えの大切さを伝えるための術である。例えば、学校や地域での防災教育や災害時の避難場所、避難経路、津波高の標示、災害遺産の保全・活用、準備百歳石や高地蔵などの防災風土資源の探訪などがあげられる。

歴史に学ぶ。

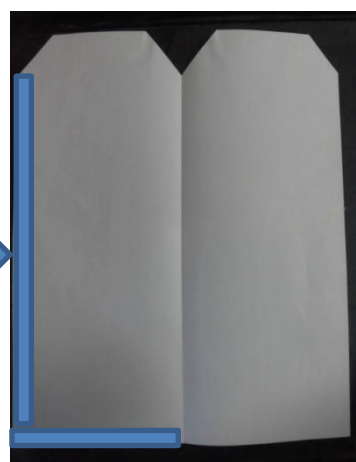
三の術：「経験則をまかす術」とは、過去に学んだ災害の経験と将来の防災にまかすための術である。失敗が成功の意義ある経験と重ねて成した法則を知る。例えば、古よりの積みの方向を知る。山林の伐採は保水力の低下を招く。大地震にははるかに津波が襲来する。小規模の洪水が流れて川を埋める。積みかさや山が崩れる。過去の記録から地震発生や山が崩れる積みかさ災害を想定するなどの経験則を生かすことなどがあげられる。



①封筒用紙をA4版で打ち出す

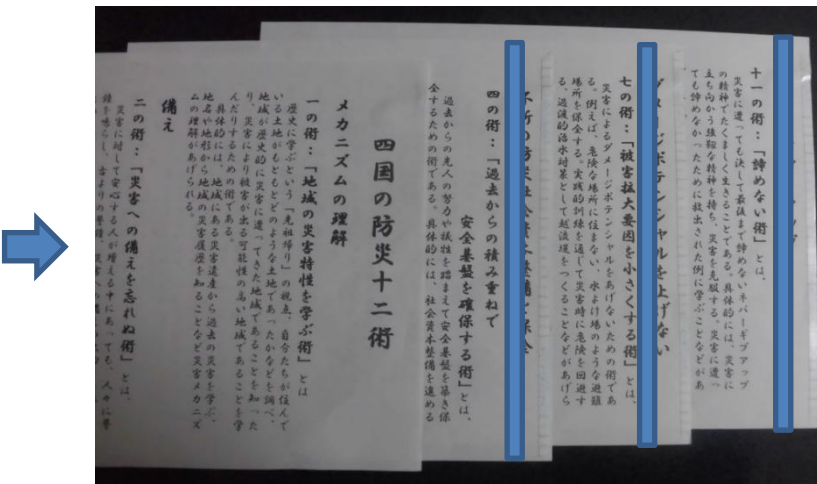


②封筒用紙上を台形にカットする



③封筒用紙の裏左と左下に両面テープを貼る。

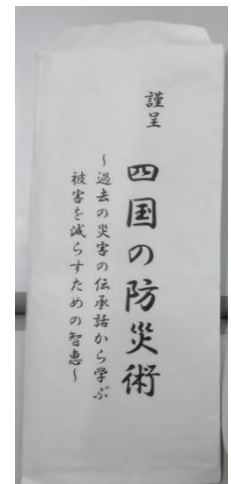
④四国の防災12術を1術から12術までA4版横サイズで打ち出す。



⑤打ち出したA4版横の四術、七術、十一術の右側端に両面テープを貼り4枚を繋ぐ。



⑥封筒に入れられる大きさに防災術を屏風折する。



⑦屏風折の防災術を封筒に入れる。

完成